令和8年9月30日（水）
宮建ジャーナル（346）掲載

先手管理を徹底、誠実な仕事積み重ねる

小野田建設株式会社／「渋井川排水機場工事」
現場所長　上野 直人 氏

安全を最優先にしながら、品質、工程、協力会社とのぶれない『連携』が現場運営を大きく支えている。台風による河川の決壊を受け、新たな水門や排水機場を整備する「渋井川排水機場工事」では、誠実な仕事で手戻り作業が生じないよう、先手管理を心掛ける。各工程で十分な事前確認と関係者間との連携を徹底している。現場をまとめる上野直人所長は、リーターシップを発揮しながら「安全は無理な作業をさせない」「品質は後戻りを出さない」「工程は先読みで調整する」「連携は職種間で早めに共有」を実践。「土木、機械、建屋の各工事を丁寧に調整し、作業の重なりを減らしながら、品質の確保と工事の効率化を図る」ことで円滑な施工に心を砕いてきた。排水機場工事は、地域の浸水被害を防ぐ重要な施設。工事の安全最優先は欠かせない。月に一度のペースで開く工事工程調整会で、発注者や工事関係者と事前チェックを徹底し、情報を共有する。情報共有システム（ASP型）の活用で工事書類を簡素化することで、現場の負担軽減にも直結している。現場に設置したウェブカメラなどのツールを駆使し、業務の効率化と生産性の向上、マネジメント力の強化にもつなげている。猛暑日が年々増加する中、熱中症対策の強化も義務付けにも対応。「休憩が増えて非効率に見えることがある。ただ実際は体調不良や判断ミス、やり直しなどが減り、結果として現場全体の効率改善につながっている」と実感する。地域の安全・安心な暮らしを守るインフラ整備。その最前線に立つ建設業の仕事に上野所長は大きな誇りと責任を持って日々施工に携わっている。多能な技術、技能が求められる時代。「若手技術者の皆さんには、現場で学ぶ姿勢を大事にしてほしい」と願う。一人ひとりが技術力を磨き、組織力を発揮してこそ、より高みを目指したものづくりの魅力だと信じている。

小野田建設株式会社：「施工の見える化」で安全・品質確保と作業の効率化実現

台風による土砂災害や洪水氾濫の被害などが全国各地で相次いで発生している。大崎市を流れる渋井川は2015年9月の関東・東北豪雨や2019年10月の台風19号で破堤。西荒井地区を中心に大規模な洪水被害に見舞われた。「渋井川排水機場工事」は、多田川との合流点に水門と排水機場を整備。渋井川の水をポンプで多田川に放流し、水門により多田川から渋井川へ逆流を防ぐ重要な治水事業となる。施工を担当する小野田建設は躯体、機械設備、建屋の各工事を丁寧に調整しながら「施工の見える化」を実現。作業の重なりを減らすことで、安全と品質確保、作業の効率化や管理の省力化にもつなげている。

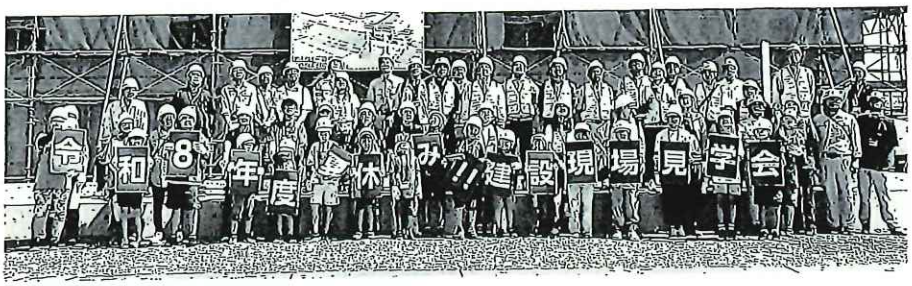
現場は河川内で軟弱地盤。鋼管杭141本を施工した。併せてP-sight（光学式杭打ち挙動計測システム）を活用し、杭を打ち込む際に支持力を確認しながら施工を進め、品質管理の向上を図りながら安全で確実な基礎づくりにつなげた。杭１本ごとの状態を数値で把握できるため施工判断がしやすく、工期の短縮や施工の正確さも高めている。

現場内には、ウェブカメラ４台を設置し、現場だけではなく、発注者や会社にもモニターでライブ中継するなど、常に確認できる体制も整えた。再度の災害防止を図る重要な排水機場の整備。現場の創意工夫と地域の安全・安心を思う技術者の熟意と向上心は尽きることはない。

■工事内容：施工延長61.6m　機場本体工（延長27.7m、幅22.5m、高さ11.6m）　沈砂池工（延長21.7m、幅17.3m、高さ11.1m）　吐出水槽工（延長12.2m、幅14.3m、高さ9.5m）　■工事場所：一級河川鳴瀬川水系渋井川　大崎市古川西荒井字若木　■工期：2023年12月19日～2027年3月26日まで。

【第5回現場見学会(大崎市)】

開催日時／2026年8月19日
開催場所／渋井川排水機場工事(大崎市古川西荒井字若木)
協　　力／大崎市、小野田建設、谷工機社
参　　加／小学生18人　保護者12人



菅原伸介支部長
地域の安全・安心と快適な暮らしを守る建設業の仕事や現場を知ってもらうことが大事だ。"イメージアップ活動は大切

パトロール車に乗車

上手に土掘りできたよ

測量機をのぞいたその先に見えたのは・・・

かき氷のサービスも！

ACTIVITY DIGEST ACTIVITY DIGEST ACTIVITY DIGEST

協会の動き

大崎支部／大雨・大崎市土砂崩れで初動対応

7月31日から降り続いた雨で、宮城県大崎市鳴子温泉鬼首の県管理する国道108号で土砂災害が発生。災害協定に基づき、宮城県建設業協会の大崎支部(菅原伸介支部長)が通行規制など初動対応に迅速に当たった。荒雄湖畔公園キャンプ場周辺の道路で、約500mにわたり3カ所程度の土砂崩れがあり、支部会員会社が中心に道路、河川のパトロールや通行規制、緊急復旧作業を実施した。

宮城建協／26年度優良建設工事会長、技士会長表彰／49社74人が対象

宮城県建設業協会は9月3日、宮城県建設産業会館で宮城県の2026年度優良建設工事表彰を受けた会員企業49社を協会長表彰した。表彰回数を代表して日建工業(仙台市青葉区)と荒雄建設(大崎市)、田中建設(女川町)、伊藤建設(岩沼市)の4社に千葉会長が表彰状を手渡した。78件の優良工事に携わった74人の現場代理人や監理技術者を代表して奥田建設(仙台市青葉区)の森茂氏に宮城県土木施工管理技士会(廣谷秀男会長)が会長表彰状を贈った。